

平成22年 12月1日	<b>農作物病虫害発生予報</b> <b>12月</b>	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
----------------	---------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	6
	(参考資料) イチゴのハダニ類簡易調査法	7
III	参考(予報の見方、気象予報、12月のテレホンサービスの内容)	8

## I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
イチゴ	灰色かび病	平年並	平年並	前年並
	うどんこ病	平年並	平年並	少
	アブラムシ類	平年並	平年並	前年並
	ハダニ類	平年並	平年並	前年並
	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	多

作物	担当者
普通作	唐津(病害) 中川(虫害)
果樹	村本(病害) 河村(虫害)
野菜	村本(病害) 溝部(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-0214

## II 予報

### 【主要病害虫】

#### イチゴ

#### 1 灰色かび病

##### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病初期

##### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年1.6%）、発病株率は0%（平年0.03%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では12月の気温は平年並みか低く、降水量は平年並みである（±）。

##### (3) 防除対策

###### <耕種的防除等>

被害果や被害葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

###### <防除のポイント>

ア ポリオキシシン剤は県内全域で耐性菌が出現している。また、ジカルボキシイミド系薬剤（スミレックス剤、ロブラール剤）およびアゾキシストロビン剤（アミスター剤）は、一部のほ場で耐性菌が出現しているため、使用後は必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

イ 薬剤耐性菌の発達を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

#### 2 うどんこ病

##### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	発病前、発病初期

##### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は15.0%（平年28.7%）、発病株率は4.1%（平年5.8%）、発病葉率は2.3%（平年2.8%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では12月の気温は平年並みか低く、降水量は平年並みである（±）。

##### (3) 防除対策

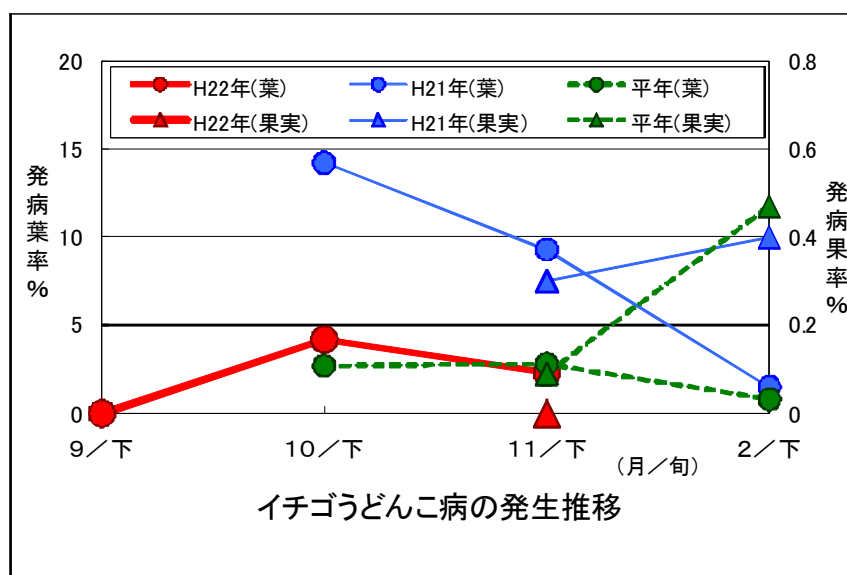
###### <耕種的防除等>

被害果や被害葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

###### <防除のポイント>

ア 発病前の予防、発病初期の防除を徹底する。

- イ 古葉を除去し、通風をよくすると共に、葉裏への薬液の付着を高める。また、薬液が葉裏や新芽にかかるように、動噴の圧力をやや弱くし丁寧に散布する。
- ウ トリフルミゾール剤などのEBI剤は、一部で感受性の低下した菌が出現しているため、使用後は必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は使用を控える。
- エ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、約7日おきに1回～2回薬剤を散布する。
- オ 薬剤耐性菌の発達を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。



### 3 アブラムシ類

#### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

#### (2) 予報の根拠

- ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は35.0%（平年29.6%）、寄生株率は5.7%（平年6.3%）で平年並みであった（±）。
- イ 気象予報では、12月の気温は平年並みか低い（±～-）。

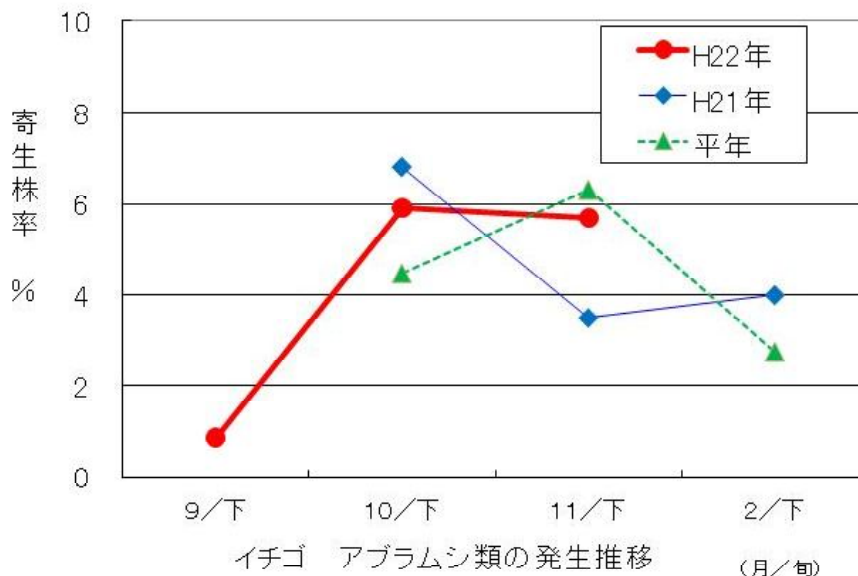
#### (3) 防除対策

##### <防除のポイント>

- ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。
  - イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
  - ウ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。ミツバチの巣箱は、薬剤の影響が無くなってから施設内に戻す。
- （山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準－野菜類の病虫害の耕種的防除と防除上の注意－いちご－ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響－128頁

[http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a1720160/00000008/2kousyu\\_yasai1.pdf](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a1720160/00000008/2kousyu_yasai1.pdf)

を参照)



#### 4 ハダニ類

##### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

##### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は30.0% (平年21.6%)、寄生株率は5.1% (平年6.0%) で平年並みであった (±)。

イ 気象予報では、12月の気温は平年並みか低い (±〜-)。

##### (3) 防除対策

###### <防除判断>

ア ハダニ類は体長が0.5mm程度と小さいため、ルーペを使用して葉裏を確認する。ナミハダニは体色が薄緑色で、体色が赤いカンザワハダニに比べ確認しにくいいため、より注意が必要である。

イ 摘除した下葉10枚程度を白い紙袋に入れ、ほ場に1日置くと翌日にはハダニは新鮮な葉を求めて移動し、紙袋の上部に集まるため容易に観察できる。

###### <(参考資料) イチゴのハダニ類簡易調査法を参照>

ウ ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

###### <防除のポイント>

ア コテツ剤、オサダン剤、サンマイル剤及びニッソラン剤は県内全域で感受性が低下している。また、その他のダニ剤 (マイルトコーネ剤、コロマイルト剤、カネマイルト剤) は、一部で感受性が低下しているため、使用後は必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は使用を控える。

イ 下葉の裏に多く寄生しているのので、不要な下葉を除去した後、薬剤を丁寧に散布する。

ウ 気門封鎖剤等の物理的防除剤は卵には効果がないため、7～10日後にもう一回散布する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

オ 天敵昆虫（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。

（ア）発生初期に放飼する（ミヤコカブリダニはハダニの発生前の放飼可能）。

（イ）天敵昆虫に影響の少ない農薬を使用する。

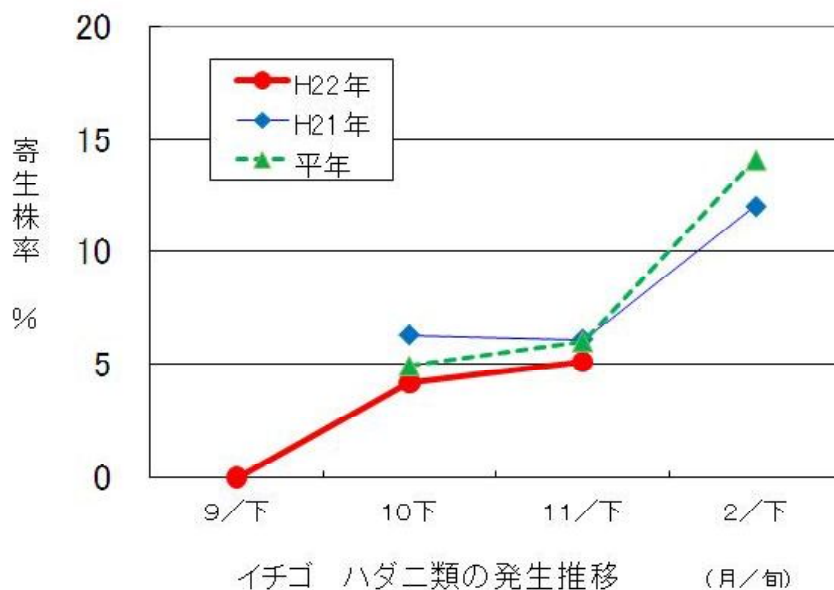
（ウ）ハダニが発生している場所の近くを中心に放飼する。

カ 開花期以降に薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。ミツバチの巣箱は、薬剤の影響が無くなってから施設内に戻す。

（山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準－野菜類の病害虫の耕種的防除と防除上の注意－いちご－ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響－128頁

[http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a1720160/00000008/2kousyu\\_yasail.pdf](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a1720160/00000008/2kousyu_yasail.pdf)

を参照)



## 5 ハスモンヨトウ

### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	—

### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は15.0%（平年13.1%）、寄生株率は0.3%（平年0.6%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、12月の気温は平年並みか低い（±～-）。

(3) 防除対策

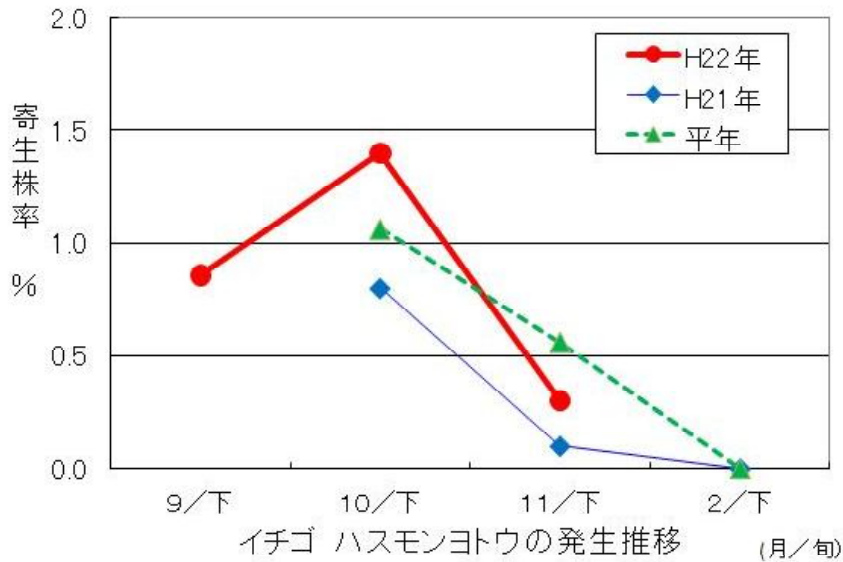
<耕種的防除等>

ア 日中に気温が上昇してくると葉や蕾の食害を始めるので、ほ場をよく観察して捕殺する。

イ 施設栽培では葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除のポイント>

アブラムシ類の<防除のポイント>イ、ウを参照する。

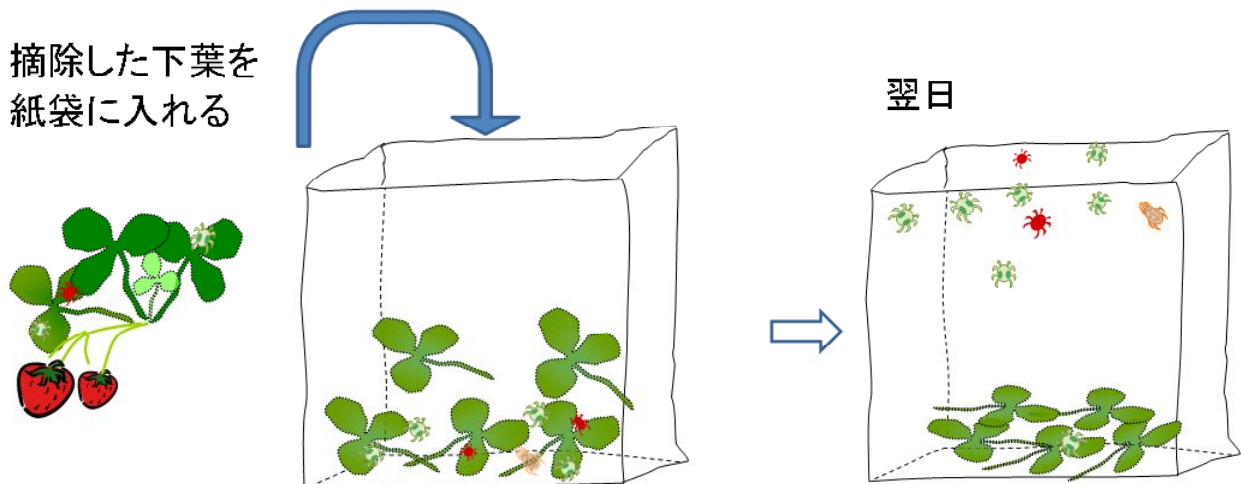


【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
イチゴ	コナジラミ類	平年並	平年並	少	20.0	19.1	

## (参考資料) イチゴのハダニ類簡易調査法

- 1 ハダニの発生しやすい場所（暖房機周辺や出入り口付近）から下葉を10枚程度集め、白い紙袋に入れる。
- 2 施設内に一日置き、葉を乾燥させる。
- 3 翌日、紙袋の上部を歩行するハダニ類（成虫、幼虫）を観察する。



(見分けるポイント)

黄緑色：ナミハダニ

赤色：カンザワハダニ

洋なし型でオレンジ色：ミヤコカブリダニ（天敵）

赤色で足が長い：チリカブリダニ（天敵）

濃緑色で大型（2mm程度）：ワタアブラムシ（黄色の個体もあり）



ナミハダニ



カンザワハダニ



ミヤコカブリダニ  
(ナミハダニを補食)



ワタアブラムシ

### Ⅲ 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

##### (2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

1か月気象予報（11月26日福岡管区気象台発表）

予 報	低 い(%) 少 ない	平年並(%)	高 い(%) 多 い
気 温	40	40	20
降 水 量	30	40	30
日照時間	30	40	30

週ごとの気温傾向

予 報	低 い(%)	平年並(%)	高 い(%)
1 週 目	30	40	30
2 週 目	40	30	30
3～4週目	40	40	20

#### 3 12月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	12月の発生予報、イチゴ病害虫の防除、果樹類病害虫の冬期防除
下旬	イチゴ病害虫の防除、カンキツ類の冬期防除